

シグマ研究委員会 共分散評価 WG 議事録

1. 日時・場所 平成5年5月20日(木) 10:30-17:30 原研本部 第5会議室
2. 報告 本 WG 設置・参加についての回答の紹介(9人分)
3. 議事

(1) WG の進め方

(a) 共分散に対する議論

- ◇ 共分散は評価値と共に出るもので、評価値毎に違っても良い
- ◇ 物理的意味が不明確で、評価者によって違うのではないか
- ◇ 共分散の結果の確認は、積分データと炉物理計算の比較で出来る
- ◇ 実験データのみ情報では共分散は出せない
- ◇ 評価済みデータの不完全さの表現である

(b) とりあえず共分散を各委員が出し、その上で共分散算出法を検討する

- 1) 核種(分担者) Li(千葉) C(柴田) O(村田) Na(中島)
Ti(小林、小田野) Fe(杉本) U-235(松延) U-238(神田)
Pu-239,-240,241(川合、菊池)

2) 予定期間 2年間

(c) 今回の算出条件

- 1) エネルギー間隔は各自きめる: 例 25群
- 2) エネルギー分布と角度分布は除外
- 3) 共鳴領域も群分割に相当して考慮
- 4) Fission spectra は保留
- 5) (n, n') の partial cross section は必要
- 6) 計算で出したものはパラメータの誤差から出す(パラメータは各自使用、後日調整)
- 7) JENDL-3/3.2 の評価値にたいする共分散である
- 8) 分散は poin-wise に与える
- 9) ENDF/B-6 Format にする
- 10) 軽い核(Li, C, O, Na)は角度分布も含める
- 11) U-235 については遅発中性子も含める。

(d) 早期実施事項

- 1) 同時評価の情報を送る
- 2) Dosimer の件は JAERI-report を見て決める

(e) その他

- 1) Dosimer については反応間の相関はなくともよい
- 2) 誤差の最低基準を決めるべきである

(2) WG の方針

(a) 評価法を分類して、対応した共分散算出法を示す

(b) 後日考慮する核 H Cr Ni Cu N Be Pb Nb Mo FP

(3) 共分散に関する専門家会議(平成5年7月15、16日 原研・東海研予定)の AGENDA を検討した

4. 次回会合

(a) 平成5年7月15日 9:30-12:00 東海研

(b) 平成5年10月中旬(7月15日に決める) これまでに各自共分散を算出しておく

以上